

第4次南国市総合計画を

策定しました



計画の役割

◎役割1 市民協働のまちづくりを進めるための共通目標

今後のまちづくりの方向性と必要な施策をわかりやすく示すとともに、南国市の特性を生かし、市民一人ひとりが主体的に参画し、市全体で連携・協働してまちづくりを進めるための共通目標となるものです。

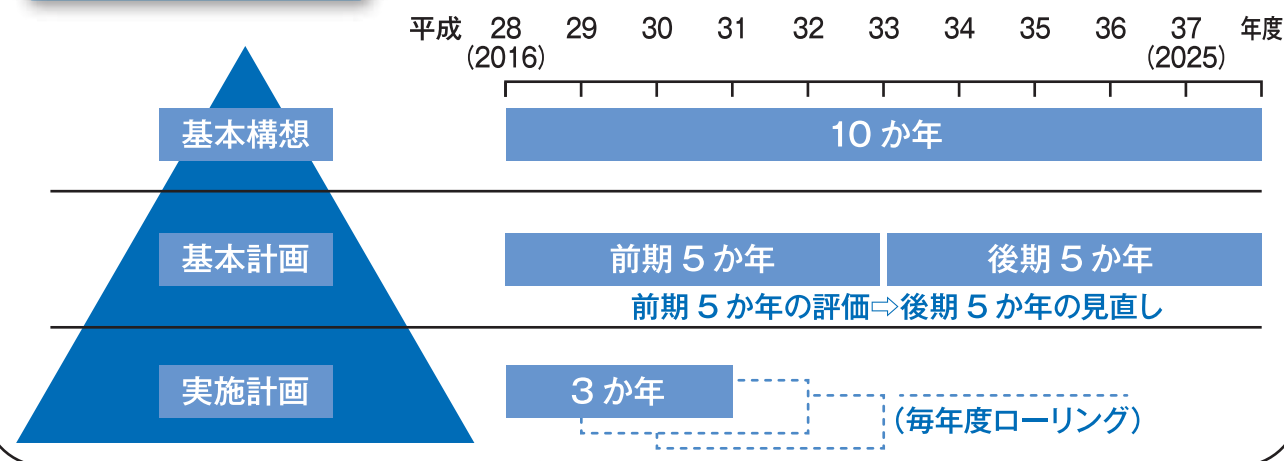
◎役割2 地域経営を進めるための行財政運営の指針

地方分権時代にふさわしい地域経営の確立に向けて、様々な施策や事業を総合的かつ計画的に推進するための、行財政運営の総合指針となるものです。

◎役割3 広域行政に対する連携の基礎

国や高知県、定住自立圏・物部川流域ブロック等の広域的な行政に対して、本計画実現に向けて必要な施策や事業を調整・反映させていく連携の基礎となるものです。

計画の構成と期間



人口推計と将来人口の見通し

本市の総人口、人口構成等の今後の推移については、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、下表のとおり予測されています。総人口は、今後ゆるやかに減少を続け、平成32年には45,000人程度、さらに計画目標年の平成37年には42,500人程度になると推計されています。本市では、人口減少を最小限に食い止め、計画目標年の人口目標を次のとおりとします。

人口目標 → 平成32年…46,500人 平成37年…45,500人

年齢3区分別人口の予想結果

(単位：人、%)

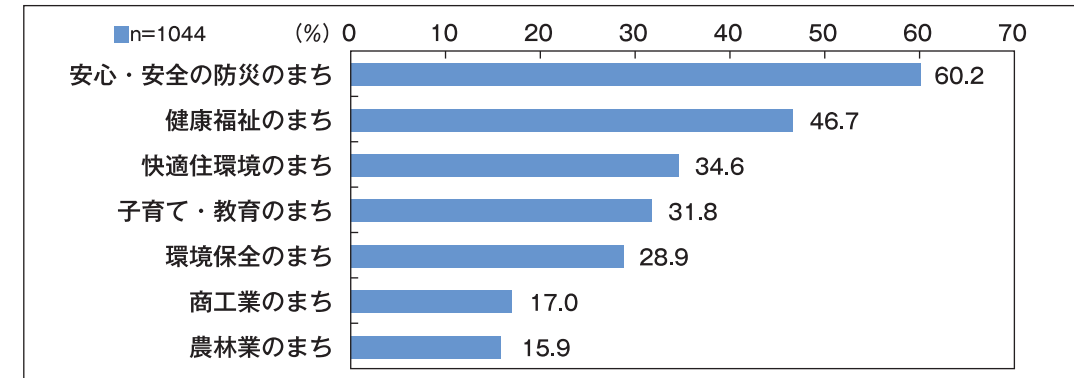
項目	年	平成22年	平成32年	平成37年	年平均増減率	
					H22~H32	H32~H37
総人口		49,472	45,059	42,533	△0.89	△1.12
年少人口 (15歳未満)		6,592 (13.3%)	4,886 (10.8%)	4,106 (9.7%)	△2.59	△3.19
生産年齢人口 (15~64歳)		30,092 (60.8%)	25,672 (57.0%)	24,131 (56.7%)	△1.47	△1.20
老年人口 (65歳以上)		12,535 (25.3%)	14,501 (32.2%)	14,296 (33.6%)	1.57	△0.28

(注) 平成22年度は国勢調査の実績値。ただし、年齢不詳が253人いるため階層区分人口の合計と総人口が不一致。

まちづくりにおける市民ニーズの動向

本計画の策定にあたって、平成26年8月に、満16歳以上の市民の中から無作為に抽出した3,000人を対象に市民アンケート調査を実施しました。有効回答1,044票、有効回収率34.8%でした。その中で、今後のまちづくりにあたっての重点方向としては、「安心・安全の防災のまち」が第1位(60.2%)、次いで「健康福祉のまち」(46.7%)、「快適住環境のまち」(34.6%)、「子育て・教育のまち」(31.8%)が上位となっています。

南国市のこれからのまちづくりの重点方向(上位7位まで／複数回答)



南国市の特性・資源

◎特性1 交通要衝のまち「なんこく」

- ・空港、JR線などの公共交通の充実
- ・高速道路網の整備
- ・高知新港に隣接



◎特性2 安心のまち「なんこく」

- ・医療機関の充実
- ・防災行政無線の整備
- ・津波避難タワーの建設



◎特性3 食育のまち「なんこく」

- ・園芸野菜や早場米の栽培
- ・地元食材を利用した学校給食



◎特性4 学びのまち「なんこく」

- ・高等教育機関や研究機関の立地
- ・外国人留学生との交流
- ・遺跡や伝統文化の充実



◎特性5 働くまち「なんこく」

- ・企業団地の立地
- ・就業先企業の充実
- ・職業セミナーの実施



総合計画は、よりよいまちづくりを総合的かつ計画的に推進するための市政の基本方針としての役割と性格を持つものであり、市の最上位計画と位置づけられます。

本市では、平成18年度に策定した「第3次南国市総合計画」の計画期間満了に伴い、市民と行政が一体となってまちづくりに取り組み、今後大きく発展していく南国市を築

いていくために、「緑とまち笑顔をあふれる南国市」を将来像に掲げ、今後10年間の市政の指針となる「第4次南国市総合計画」を策定しました。

よりよいまちづくりの推進に向けて